

---

# 東方寄生来 ~the parasite of instinct~

DHMO

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方寄生來 / the parasite of instance

t  
t

### 【Zコード】

N2231U

### 【あらすじ】

寄生生物、パラサイト。その中で最も強力とされた「後藤」が今、幻想郷に足を踏み入れる

## パラサイト「後藤」（前書き）

この作品は石明均氏作の「寄生獣」のキャラクターが幻想入りしちやつお話です。んなもん知らねーって方でも楽しんでいただける作品を書きたい次第であります。如何せん作者の技量が低い為、「寄生獣」の魅力が引き立てられないかと思われます。ですので、過度な期待をされでは落とされた時の衝撃が半端無いのでそこに注意してお読み下さい

## パラサイト「後藤」

地球上の誰かが、ふと思った

『人間の数が半分になつたら、幾つの森が焼かれずに済むだろうか

……』

地球上の誰かが、ふと思った

『人間の数が100分の1になつたら、たれ流される毒も100分の1になるのだろうか……』

誰かが、ふと思つた

『生物の未来を守らねば……』

主に人体に侵入し、脳を食べる。そのまま頭部と同化し全身を操る寄生生物である。

一見すると人間だが、その寄生部分は自在に変形する。ゴムの様に伸び、金属の如く硬くなる事も出来る。寄生部分全体が「脳」であり「眼」であり「触手」なのだ。

しかし強力であれば欠点があるのは自然の摂理。パラサイトは「脳」になれても「身体」にはなれない。つまり、食事が出来ても消化、吸収が出来ないのである。この為、彼らは必然的に他者の肉体に依存しなければならないか弱い存在でもある。

そして彼らに共通している欲求、食欲。それは肉体に栄養を補給する事が目的もあるが、彼らが脳を奪つたその瞬間に来る「命令」にも大きく直結している。

蠅は教わりもしないのに飛び方を知っている。蜘蛛は教わりもしないのに巣の張り方を知っている。それは両者も「命令」に従つているだけなのだろう。あるパラサイト曰く、地球上の生物は総てが何かしらの「命令」を受けているそうだ。

彼らパラサイトに来た「命令」。それは

“この「種」を食い殺せ”

パラサイト発生から約三年。彼らの中でも学習し、食生活を変えて人間社会に溶け込んでいく者も現れ始める中、ただ「彼」だけは闘いを求めていた。

「彼」はあるパラサイトの実験によって創り出された、一つの人間の頭と四肢に合計五匹のパラサイトがいる無敵とまで言われた存在である。

彼の名前は　パラサイトの殆どは名前を重視していないが、敢えて呼称をつけるならば　「後藤」。おそらく、五匹の「頭」であるからだろう。右腕に寄生している者にも名前はあるが、そこには今は触れないでおく。

彼、後藤が何故闘いを求めているのか。それは一つの身体に「命令」が集約したからだ。“この「種」を食い殺せ”。その命令にのみ従うからこそ、彼は闘いを、人間との闘いを求めていたのだ。

だが今、後藤は無惨な姿と化してしまっている。自らが狩る筈であった右腕にパラサイトを持つていた青年の運に、彼は負けてしまつたのだ。体内にねじ込まれた毒のせいでの統率に乱れが生じ、少し傷を付けられただけで全身が弾け飛んでしまう程の緊張状態にあつたのだ。

瀕死の後藤は四散した者達に必死に召集を掛けている。弱々しく、か細い肉片が繋がり、徐々に形を成していく。蘇生する可能性は五分五分。だが、彼は呼びかけ続ける。闘いを、種の間引きを求めて。

そんな彼を見下ろしている青年がいる。右腕には先程後藤を打ち取

つたパラサイトも一緒だ。

青年は思う。後藤を自分の、人間のエゴで殺していいのだろうか、と。彼らパラサイトも生きている、自分が生殺与奪権を握るべきなのだろうか、と。

左手に握った鉈。右手用で使い慣れない、しかも鎧が酷い代物だが、今の後藤を殺すのには十分だ。

それを振り上げ、残った肉体を完全に殺す それが出来ない。

放置して復活した後藤による惨劇が繰り返されない保証は無い。だが、青年には手を下せなかつた。憎むべき対象であるパラサイト。母親も、友人達もその凶刃に掛かつたと言つのに！

やがてその場を静かに去る青年。右腕のパラサイトは何も言わないで、ただ後藤へと形成されていくモノ眺めていた。

そこで終わらせないのがこのお方。みんなもご存知、幻想郷の賢者であらせられる八雲紫嬢。事の一歩始終を見ていた彼女は一言呟いたのがオチになった。

「……いいわね」

大妖怪に魅入られたか弱く無敵なパラサイト、後藤。彼が辿る数奇な運命とは如何に。

## パラサイト「後藤」（後書き）

如何でしたでしょうか。話が動き始めるのは次話からであります  
その時までにはマシな文章を書ける様に頑張ります

……頑張るつたら頑張ります

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2231u/>

東方寄生来～the parasite of instinct～

2011年7月27日22時35分発行